

2025年度  
小論文  
(公募制)

2024年11月17日実施  
獣医学部 動物資源科学科

|      |  |    |  |
|------|--|----|--|
| 受験番号 |  | 氏名 |  |
|------|--|----|--|

【注 意 事 項】

1. 試験監督(試験開始)の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題冊子は1ページから3ページまであります。
4. 試験監督の指示により、問題冊子と解答用紙に**受験番号**および**氏名**を記入しなさい。
5. 試験中に問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて試験監督に知らせなさい。
6. 試験終了後、問題冊子と解答用紙はともに机上に置いておくこと。持ち帰ってはいけません。

以下の2つの文章①、②を読み、設問に答えなさい。

- ① 鹿児島県奄美大島で駆除を進めてきた特定外来生物マングースについて、環境省は3日、「根絶宣言」を発表した。ハブ対策などの目的で持ち込まれて約半世紀。いったん定着したマングースがこれほど大きな島で根絶されたことはなく、「世界的に前例のない、生物多様性保全上の重要な成果」としている。

環境省などによると、奄美大島のマングースは1979年ごろ、先に導入されていた沖縄から持ち込まれた。だが、島内で繁殖してアマミノクロウサギなど希少な野生動物を襲っていることがわかり、90年代前半から市町村が捕獲を開始。国も2000年度から駆除を本格化した。

捕獲数は累計3万2千匹余り。00年代には年2千匹を超えたが、18年4月を最後にゼロが続く。ワナや自動撮影カメラ、探索犬でも生息情報は確認されていない。一方、在来の希少種は近年回復しつつある。

(2024年9月4日 朝日新聞 東京本社)

- ② 人里に近づいたヒグマが時に人を襲い、農作物を荒らす。駆除をした自治体には、非難が押し寄せる。

札幌市内で7月8日、1頭の母グマが駆除された。すぐに、市には批判の声が殺到した。

<中略>

1カ月半ほどの間に寄せられた意見は650件超。一日だけで240件ほどに上る日もあった。

この母グマと子グマ3頭は5～7月中旬、計18回出没が確認された。多くの登山客が訪れる藻岩山や住宅街周辺にも現れた。

笛で追い返し、誘引物となる果樹を電気柵で囲う。市はできる対策を取ったが、グマは市街地での出没を繰り返した。人的被害の恐れが高まったとして、箱わなで捕まえた母グマの駆除に踏みきった。

それでも市に寄せられた意見は、大部分が駆除に批判的な内容だ。市外や道外からの意見が全体の約7割にのぼり、「殺さない方法を考えてほしい」との内容が多くを占めた。

<中略>

電話の意見とは裏腹に、市が昨年度におこなった市民アンケートでは、市街地や住宅地での出没対応に関して、「人身被害の恐れがあれば駆除」が42.7%にのぼり、「駆除」とあわせると7割を超えた。

(2023年11月14日 朝日新聞 北海道本社)

## 設問

生態系を傷つける外来種や人身被害の恐れのある野生動物の駆除が行われている一方、それに対して「人の都合で、なぜ動物側の命が奪われるのか」、「駆除対象の動物でも殺してよい命があるわけではない」という意見もある。駆除の必要性和命の大切さについて、あなた自身はどのように理解していますか？あなたの考えを800字以内で述べなさい。